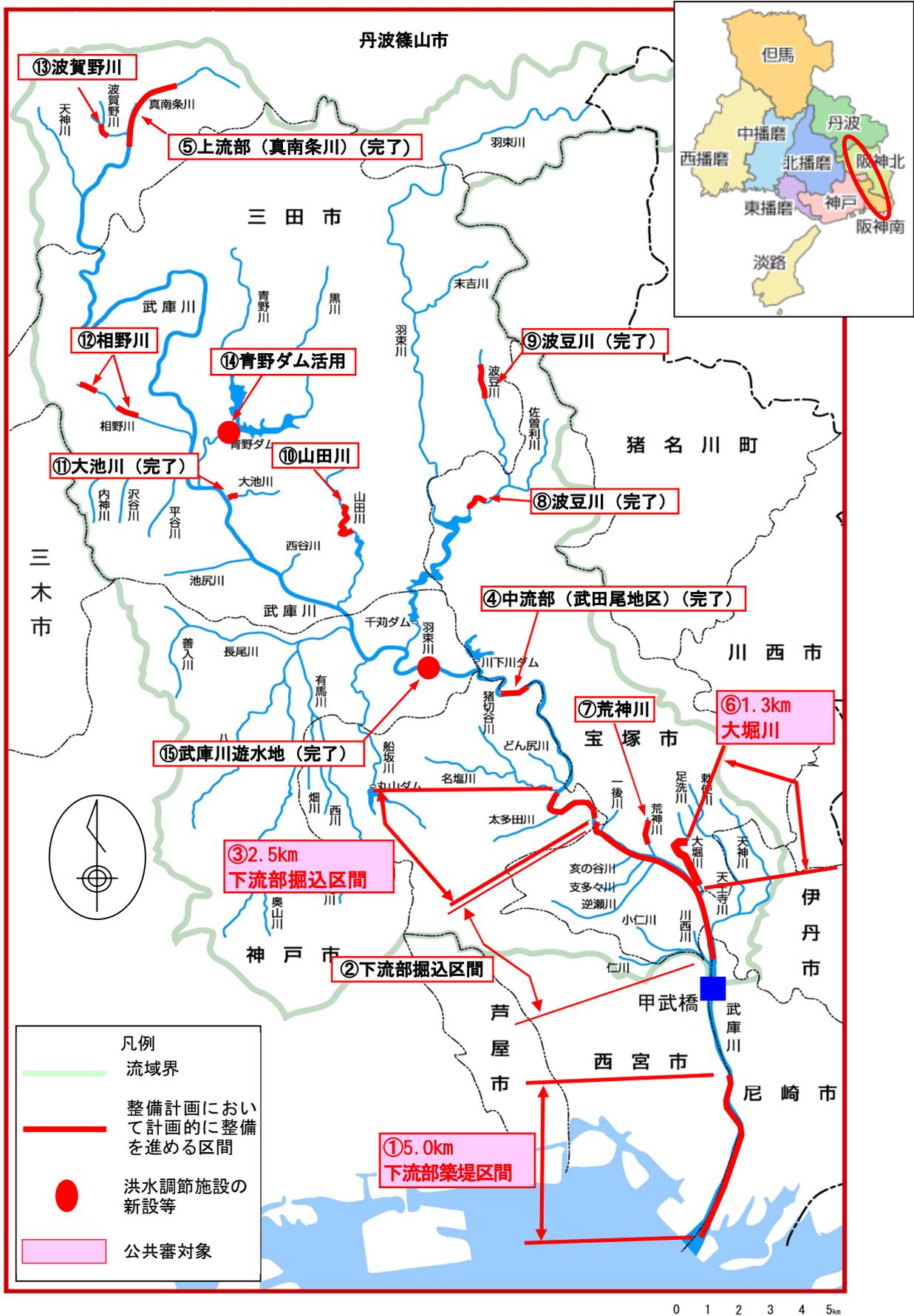


令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福永 悦男 (河川・武庫川整備班主幹 向 和哉)	内線	4408 (4439)
事業種目	河川事業	水系名	武庫川水系		
事業目的					
武庫川水系において、平成23(2011)年8月に策定した河川整備計画に基づき、河川断面を拡大することにより、治水安全度を向上させ、地域の安心・安全を確保する。					
武庫川水系河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標流量	事業の状況	前回評価年度
①	武庫川 下流部築堤区間 [河口～JR 東海道線橋梁下流]	5.0km	戦後最大の 昭和 36 (1961) 年 6 月 27 日規模の 洪水を安全に流下	事業中	R2 (2020) 再評価
②	武庫川 下流部掘込区間 [仁川合流点～生瀬大橋]	6.9km	戦後最大の 昭和 36 (1961) 年 6 月 27 日規模の 洪水を河道内で流下	事業中	(評価対象外)
③	武庫川 下流部掘込区間 [生瀬大橋～名塩川合流点]	2.5km		事業中	R2 (2020) 再評価
④	武庫川 中流部 [武田尾地区]	0.9km		H30(2018) 完了	—
⑤	武庫川 上流部 [岩鼻橋～山崎橋]	1.9km	戦後第2位の 昭和 36 (1961) 年 6 月 27 日規模の 洪水を安全に流下	R3(2021) 完了	(評価対象外)

支川				
区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
⑥ 大堀川 [西田川橋～西ノ町橋]	1.3km	戦後最大の 昭和 58 (1983) 年 9 月 26 日規模の 洪水を安全に流下	事業中	R2 (2020) 再評価
⑦ 荒神川 [国道 176 号～荒神橋]	0.6km		事業中 (宝塚市施工)	(評価対象外)
⑧ 波豆川 [滝本橋～島橋]	0.3km	戦後最大の 昭和 36 (1961) 年 6 月 27 日規模の 洪水を安全に流下	R4 (2022) 完了	(評価対象外)
⑨ 波豆川 [中河原橋～護魔池]	0.6km		R1 (2019) 完了	(評価対象外)
⑩ 山田川 [山田滑谷ダム上流 1,050m ～砥石橋上流 500m]	1.9km		事業中	(評価対象外)
⑪ 大池川 [JR 福知山橋梁 ～国道 176 号上流 50m]	0.1km		H28 (2016) 完了	(評価対象外)
⑫ 相野川 [洞橋～2 級河川上流端]	1.7km		事業中	H25 (2013) 新規評価 (公共審対象外)
⑬ 波賀野川 [JR 福知山線橋梁～西角橋]	0.4km	戦後第 2 位の 昭和 36 (1961) 年 6 月 27 日規模の 洪水を安全に流下	事業中	H26 (2014) 新規評価 (公共審対象外)
⑭ 洪水調節施設 [青野ダムの活用]	—	予備放流の拡大により洪水調節容量を 560 万 m ³ から 600 万 m ³ に 40 万 m ³ 拡大	事業中	—
⑮ 洪水調節施設 [武庫川遊水地の整備]	—	甲武橋地点の洪水流量を 20m ³ /s 低減	H30 (2018) 完了	H24 (2012) 策定報告

武庫川水系武庫川 河川整備計画 全体位置図



【武庫川水系武庫川】

工区	事業区間	整備内容		現計画	前回評価時点
①武庫川 下流部築堤区間	河口 ～JR 東海道線橋梁下流 尼崎市平左衛門町、西宮市高須町 ～尼崎市稲葉荘、西宮市甲子園口	河道改修 5.0km 河床掘削 低水路拡幅 低水護岸 横断工作物撤去・改築 橋梁架替1橋 等 【負担割合】 国：50% 県：50%	総事業費	395億円	280億円
			内地地補償費	7億円	7億円
			完成予定年度	令和12 (2030)年度	令和12 (2030)年度
			進捗率 (用補進捗率)	74% (100%)	41% (17%)
			残事業費	101億円	164億円

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費の変更概要】 下記の理由等により、事業費を変更する。(115億円増額) ・低水護岸の構造を根継工から護岸積替えに変更したことに伴う増額 ・建設資材価格や労務単価等の上昇に伴う増額</p>				
進捗状況	<p>・河口部から河床掘削を継続するとともに、河床掘削に先立ち、護岸工事を推進。 ・令和7年5月に南武橋架替完了。 ・令和7年11月に潮止堰撤去工事に着手。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (令和2年度再評価)	【審査会意見】 意見なし	【対応方針】 —			
(1)必要性	<p>武庫川流域では過去に発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【過去の主な浸水被害（武庫川流域全体の被害戸数）】 昭和36（1961）年 6月豪雨 （浸水家屋12,354戸） 平成11（1999）年 6月豪雨 （浸水家屋 1,038戸） 平成16（2004）年10月台風第23号 （浸水家屋 225戸） 平成26（2014）年 8月台風第11号 （浸水家屋 10戸）</p>				
(2)有効性 ・効率性 (事業執行環境)	<p>①費用便益比：B/C=12.4（河川整備計画におけるすべての事業による費用便益比） ②河川整備基本方針は平成21（2009）年3月、河川整備計画は平成23（2011）年8月に策定済 ③武庫川の浸水想定区域には、約123万人が居住しており、河川改修に関する関心は高く、早期改修の要望が強い。</p>				
(3)環境適合性	<p>武庫川の河川整備計画では、環境に関して「流域内で種の絶滅を招かない」「流域内に残る優れた生物の生息空間の総量を維持する」という2つの原則を掲げており、生物環境の保全に努めている。</p>				
(4)優先性	<p>事業区間には人家連担区域が含まれ、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されており、優先性は高い。</p>				
の再 結果 評価	継続	左の理由	<p>事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。</p>		

【武庫川水系武庫川】

工区	事業区間	整備内容		現計画	前回評価時点
③武庫川 下流部掘込区間	生瀬大橋～ 名塩川合流点 西宮市生瀬町 ～塩瀬町	河道改修 2.5km 河床掘削 護岸・築堤 橋梁架替1橋 【負担割合】 国：50% 県：50%	総事業費	62億円	33億円
			内地補償費	11億円	11億円
			完成予定年度	令和12 (2030)年度	令和12 (2030)年度
			進捗率 (用補進捗率)	37% (45%)	52% (36%)
			残事業費	39億円	16億円

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費の変更概要】 下記の理由等により、事業費を変更する。(29億円増額) ・詳細測量の結果、河床掘削の対象土量が増加したことに伴う増額 ・建設資材価格や労務単価等の上昇に伴う増額</p>	
進捗状況	<p>・西宝橋(市道橋)架替工事は国道176号(名塩道路)を整備中の国土交通省兵庫国道事務所へ委託し平成30年度に着手。令和4年9月に仮橋を供用開始し、令和7年度に下部工が完成。 ・護岸、築堤箇所の用地買収を進めている。</p>	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (令和2年度再評価)	【審査会意見】 意見なし	【対応方針】 —
(1)必要性	<p>武庫川流域では過去に発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【過去の主な浸水被害(武庫川流域全体の被害戸数)】 昭和36(1961)年 6月豪雨 (浸水家屋12,354戸) 平成11(1999)年 6月豪雨 (浸水家屋 1,038戸) 平成16(2004)年10月台風第23号 (浸水家屋 225戸) 平成26(2014)年 8月台風第11号 (浸水家屋 10戸)</p>	
(2)有効性 ・効率性 (事業執行環境)	<p>①費用便益比：B/C=12.4(河川整備計画におけるすべての事業による費用便益比) ②河川整備基本方針は平成21(2009)年3月、河川整備計画は平成23(2011)年8月に策定済 ③武庫川の浸水想定区域には、約123万人が居住しており、河川改修に関する関心は高く、早期改修の要望が強い。</p>	
(3)環境適合性	<p>武庫川の河川整備計画では、環境に関して「流域内で種の絶滅を招かない」「流域内に残る優れた生物の生息空間の総量を維持する」という2つの原則を掲げており、生物環境の保全に努めている。</p>	
(4)優先性	<p>事業区間には人家連担区域が含まれ、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されており、優先性は高い。</p>	
の再 結 果 の 再 評 価	継続	左の理由 事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

【武庫川水系大堀川】

工区	事業区間	整備内容		現計画	前回評価時点
⑥大堀川	西田川橋～ 西ノ町橋 宝塚市小浜～ 米谷	河道改修 1.3km 河床掘削 護岸 橋梁架替 2 橋 暗渠 【負担割合】 国：50% 県：50%	総事業費	33億円	29億円
			内地地補償費	2億円	2億円
			完成予定年度	令和12 (2030)年度	令和9 (2027)年度
			進捗率 (用補進捗率)	48% (50%)	45% (50%)
			残事業費	16億円	16億円

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(4億円増額、3年延伸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工方法の検討による事業期間の延伸 ・建設資材価格や労務単価等の上昇に伴う増額 	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第一小浜橋（尼崎宝塚線）下流の護岸整備が完了。 	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (令和2年度再評価)	【審査会意見】 意見なし	【対応方針】 —
(1)必要性	<p>大堀川では過去に発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【過去の主な浸水被害】 昭和58（1983）年 9月 台風第10号 （浸水家屋450戸） 平成30（2018）年 8月 台風第20号 （浸水家屋 7戸）など3回浸水 令和2（2020）年 7月 豪雨 （浸水家屋 51戸）など3回浸水</p>	
(2)有効性 ・効率性 (事業執行環境)	<p>①費用便益比：B/C=12.4（河川整備計画におけるすべての事業による費用便益比） ②河川整備基本方針は平成21（2009）年3月、河川整備計画は平成23（2011）年8月に策定済 ③近年、浸水被害も発生しており、地域住民からの早期改修の要望が強い。</p>	
(3)環境適合性	<p>武庫川の河川整備計画では、環境に関して「流域内で種の絶滅を招かない」「流域内に残る優れた生物の生息空間の総量を維持する」という2つの原則を掲げており、生物環境の保全に努めている。</p>	
(4)優先性	<p>事業区間には人家連担区域が含まれ、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されており、優先性は高い。</p>	
の再 結果 評価	継続	左の理由 事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

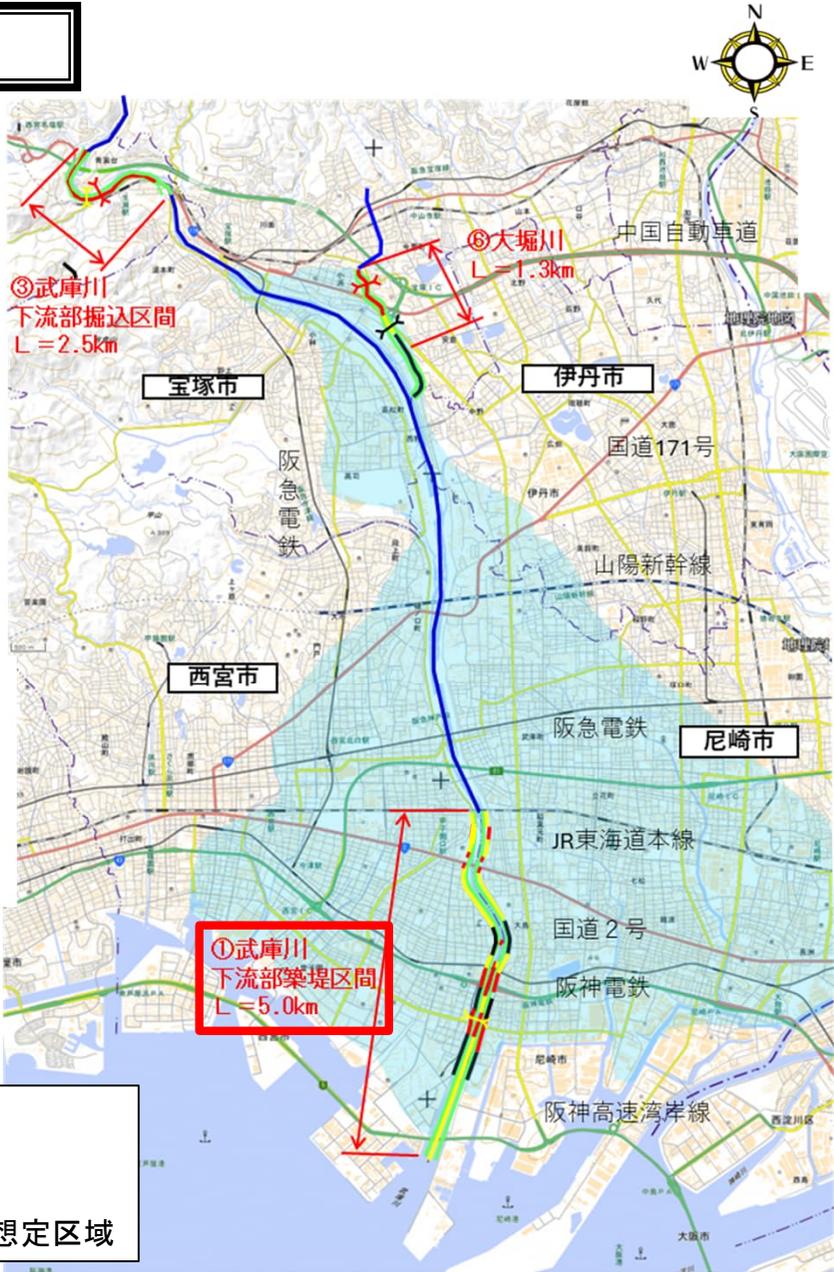
武庫川・大堀川 整備概要図



工区	河川整備計画 全体 H23(2011)～R12(2030)	前回評価 (R2(2020)まで)	前回評価から R7(2025)まで	今後5年間 R8(2026)～R12(2030)
① 武庫川 下流部築堤区間	【事業費=395億】 ・整備延長:L=5.0km ・整備内容:河床掘削 低水路拡幅 低水護岸 横断工作物撤去・改築 橋梁架替1橋 等	【事業費=87億円】 ・河床掘削 ・低水路拡幅 ・低水護岸	【事業費=207億円】 ・河床掘削 ・低水路拡幅 ・低水護岸 ・横断工作物撤去・改築 ・橋梁架替	【事業費=101億円】 ・河床掘削 ・低水路拡幅 ・低水護岸 ・横断工作物撤去・改築 ・橋梁架替
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の確保
③ 武庫川 下流部掘込区間	【事業費=62億】 ・整備延長:L=2.5km ・整備内容:河床掘削 護岸・築堤 橋梁架替1橋	【事業費=11億円】 ・河床掘削 ・護岸・築堤 ・橋梁架替	【事業費=12億円】 ・橋梁架替	【事業費=39億円】 ・河床掘削 ・護岸・築堤 ・橋梁架替
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の確保
⑥ 大堀川	【事業費=33億】 ・整備延長:L=1.3km ・整備内容:河床掘削 護岸 橋梁架替2橋 暗渠	【事業費=12億円】 ・河床掘削 ・護岸 ・橋梁架替	【事業費=5億円】 ・河床掘削 ・護岸	【事業費=16億円】 ・河床掘削 ・護岸 ・橋梁架替 ・暗渠
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の確保

①河川事業 二級河川武庫川水系武庫川[下流部築堤区間] (継続:再評価)

位置図



国土地理院地図

目的

武庫川水系河川整備計画(H23.8)に基づき治水安全度を向上
(戦後最大の昭和36年6月27日規模の洪水を安全に流下させる)

事業概要

事業区間: 河口～JR東海道線橋梁下流
 総事業費: 395億円
 事業期間: H23(2011)～R12(2030)
 工事内容: 河床掘削、低水路拡幅、低水護岸
 横断工作物撤去・改築、橋梁架替1橋
 延長: 5.0km
 費用便益比B/C: 12.4※
 (※河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

洪水実績

昭和58年台風10号

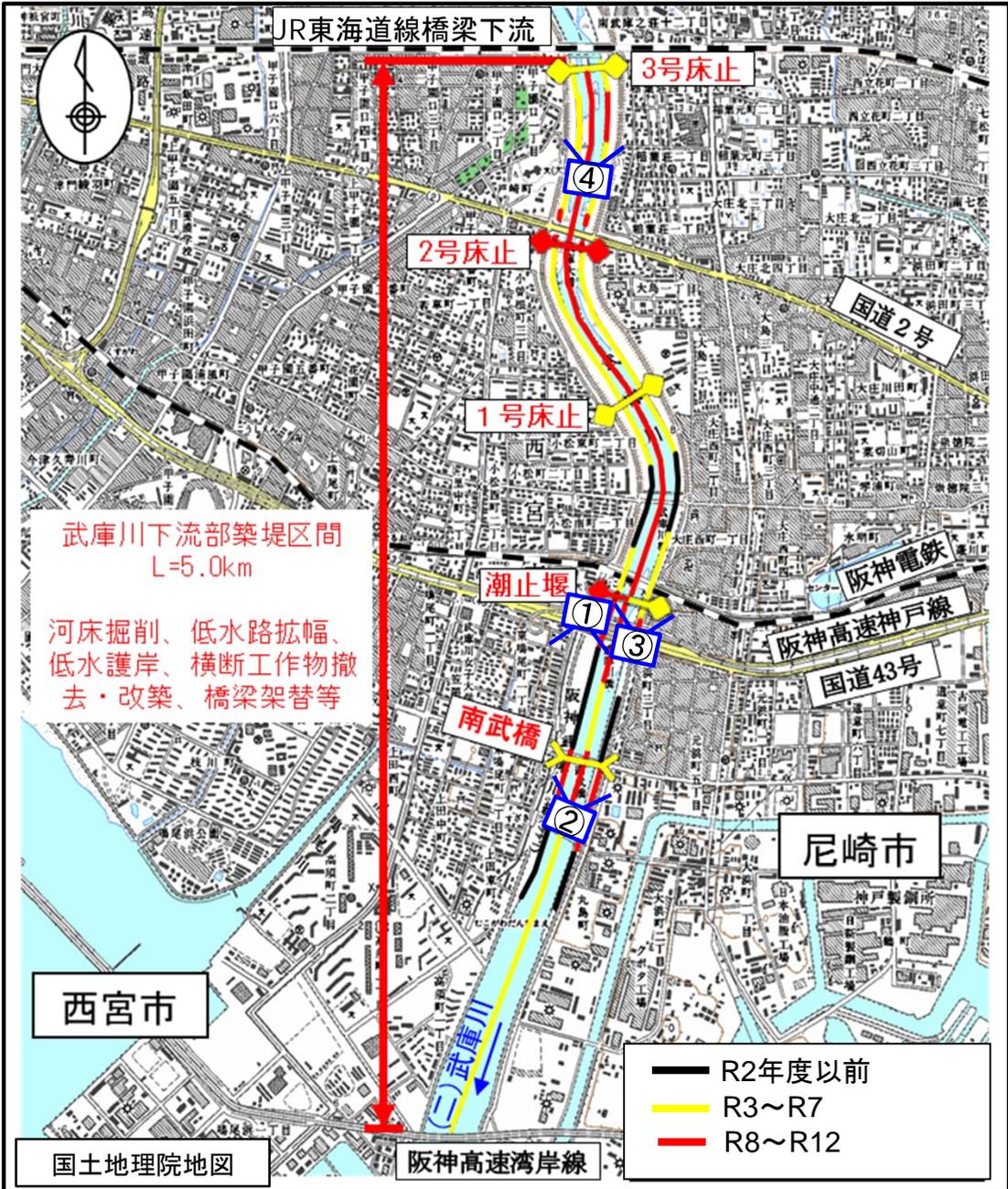


平成16年台風23号



①河川事業 二級河川武庫川水系武庫川[下流部築堤区間] (継続:再評価)

事業進捗平面図



現況写真

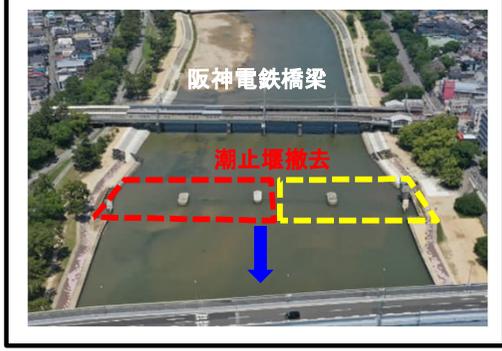
①事業中区間(低水路拡幅)



②事業中区間(南武橋付近)



③事業中区間(阪神電鉄付近)



④事業中区間(JR東海道線付近)



工程表

■ : 前回計画
■ : 今回計画

整備内容	前期								後期											
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
河床掘削																				
低水路拡幅																				
低水護岸																				
横断工作物撤去・改築																				
橋梁架替等																				

③河川事業 二級河川武庫川水系武庫川[下流部掘込区間] (継続:再評価)

位置図



目的

武庫川水系河川整備計画(H23.8)に基づき治水安全度を向上 (戦後最大の昭和36年6月27日規模の洪水を河道内で流下させる)

事業概要

事業区間: 生瀬大橋～名塩川合流点
 総事業費: 62億円
 事業期間: H23(2011)～R12(2030)
 工事内容: 河床掘削、護岸・築堤、橋梁架替1橋
 延長: 2.5km
 費用便益比B/C: 12.4*
 (*河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

浸水実績

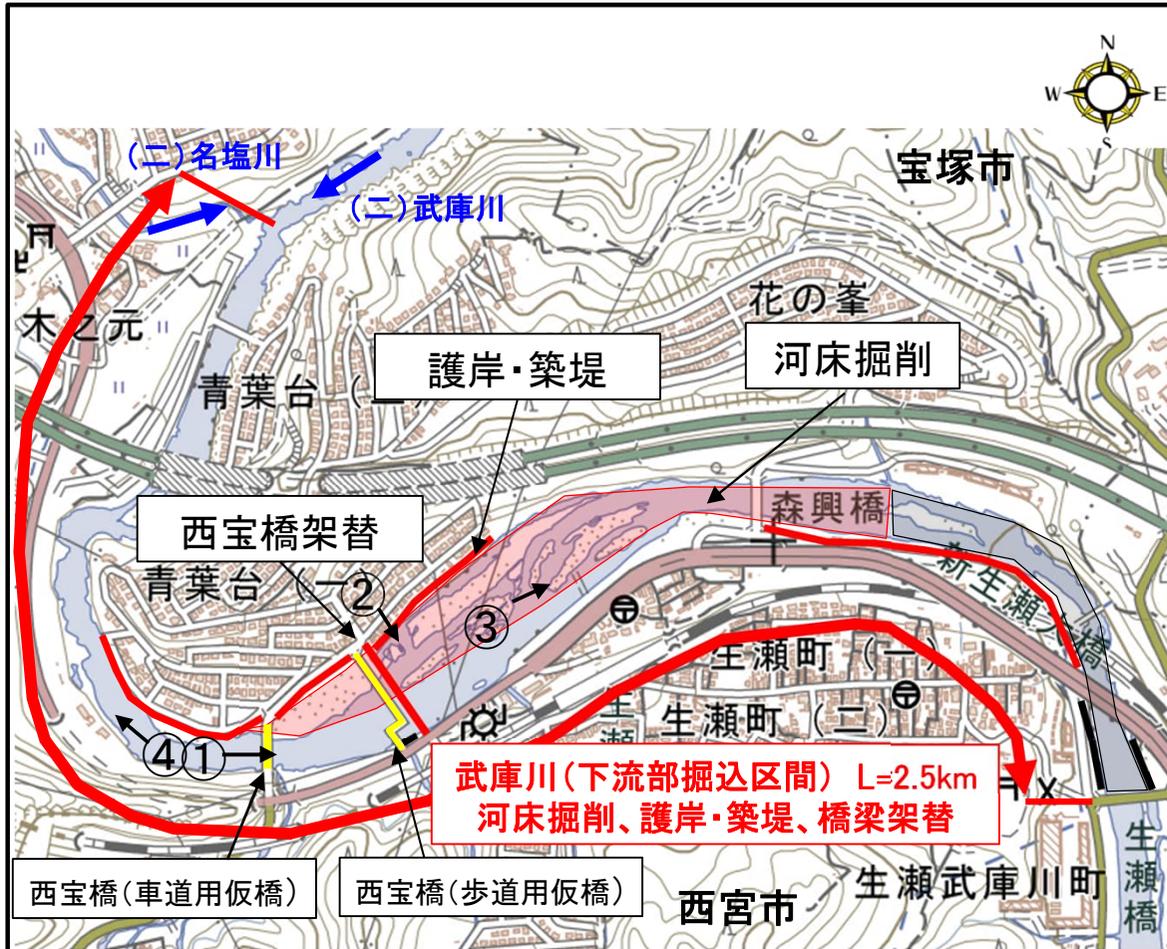
昭和58年台風10号



宝塚市街地付近

③河川事業 二級河川武庫川水系武庫川[下流部掘込区間] (継続:再評価)

事業進捗平面図



- R2年度以前
- R3~R7
- R8~R12

現況写真

①事業中区間(西宝橋付近)



②事業中区間(西宝橋下部工)



③残事業区間(西宝橋下流付近)



④残事業区間(西宝橋上流付近)



工程表

— : 前回計画
 — : 今回計画

整備内容	前期									後期											
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
河床掘削																					
護岸・築堤																					
橋梁架替																					

⑥河川事業 二級河川武庫川水系大堀川（継続：再評価）

位置図



- : R2以前
- : R3~R7
- : R8以降
- : 洪水浸水想定区域

目的

武庫川水系河川整備計画(H23.8)に基づき治水安全度を向上
(戦後最大の昭和58年9月26日規模の洪水を安全に流下させる)

事業概要

事業区間: 西田川橋～西ノ町橋
 総事業費: 33億円
 事業期間: H23(2011)～R12(2030)
 工事内容: 河床掘削、護岸、橋梁架替2橋、暗渠
 延長: 1.3km
 費用便益比B/C: 12.4*
 (*河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

浸水実績

平成30年台風21号



黒鉾橋上流

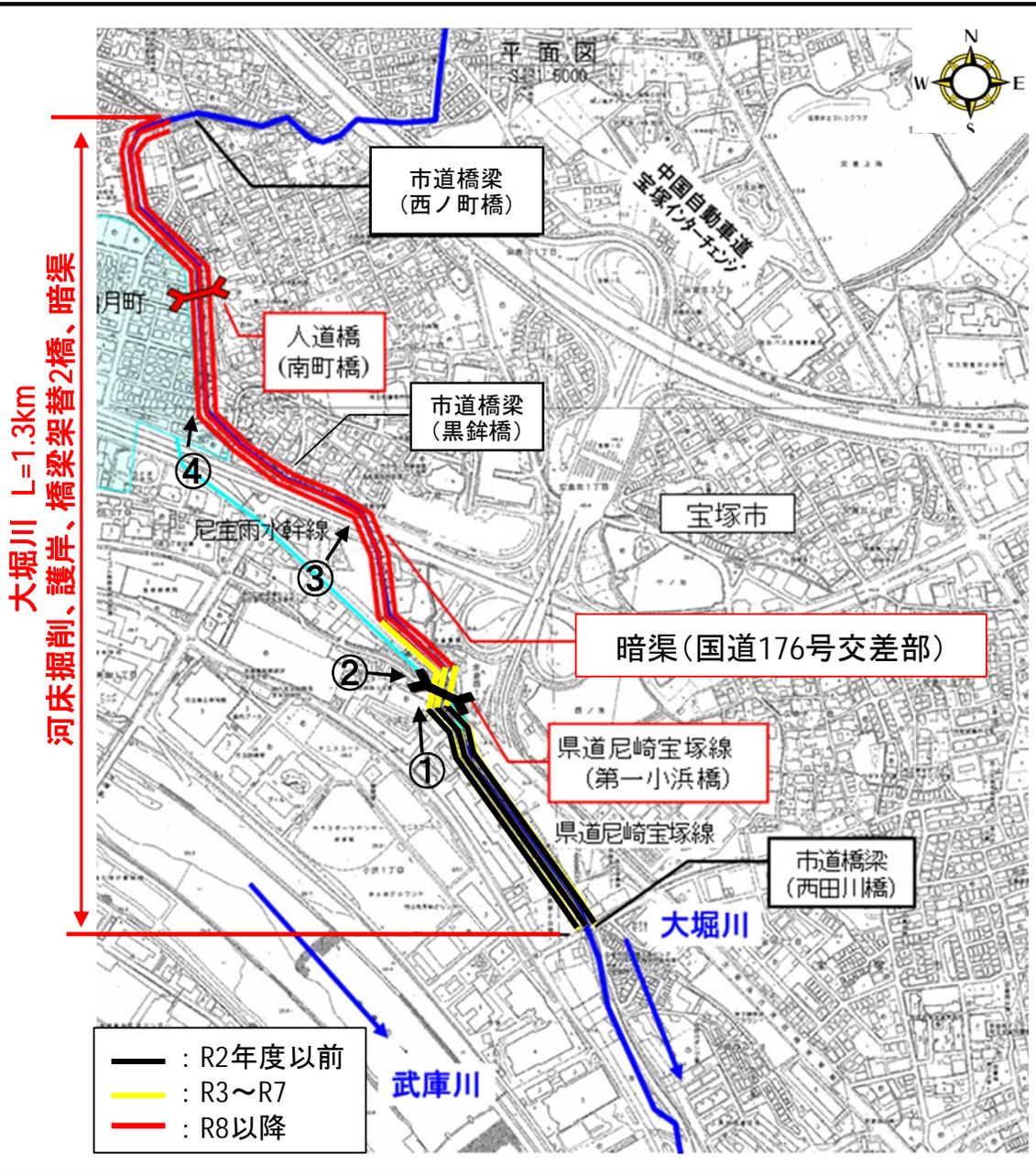
令和2年7月8日降雨



黒鉾橋上流

⑥河川事業 二級河川武庫川水系大堀川（継続：再評価）

事業進捗平面図



現況写真

①完成区間(第一小浜橋下流)



②完成区間(第一小浜橋上流)



③残事業区間(国道176号交差部)



④残事業区間(向月町付近)



工程表

— : 前回計画
— : 今回計画

整備内容	前期										後期											
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
河床掘削																						
護岸																						
橋梁架替2橋																						
暗渠 (国道176号交差部)																						

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

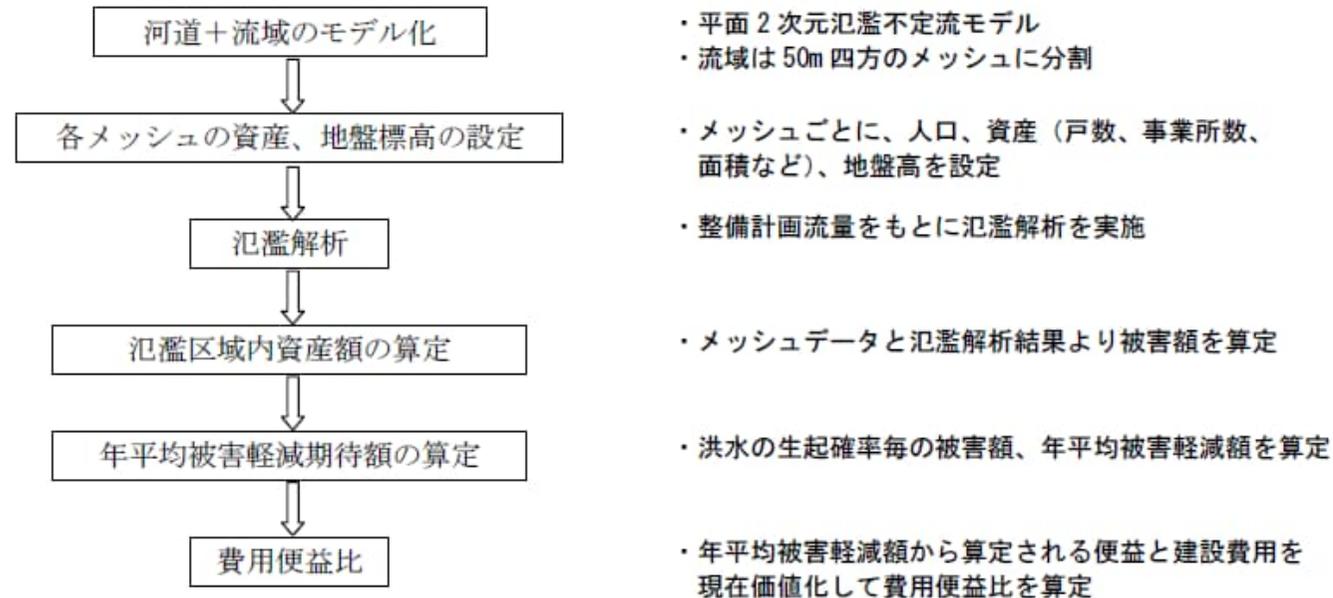
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害
 + 公共土木施設等被害
 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益費(B/C)算出根拠(百万円)

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
804,117	戦後最大規模の洪水に対して ・浸水戸数47,197戸の解消 ・浸水面積1,015haの解消	64,919 (百万円)	58,386 (百万円)	6,533 (百万円)	12.4

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・浸水区域内人口121,944人の被害を軽減 (水防法に基づく浸水想定区域(想定最大)内人口は約123万人)
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・JR東海道本線、JR宝塚線、阪急電鉄神戸線、阪神電鉄本線の鉄道交通途絶を軽減 ・阪神高速神戸線、中国自動車道、国道2号、国道43号、国道171号、国道176号の道路交通途絶を軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○ ・浸水想定区域内の社会福祉施設27施設、防災拠点施設3施設の被害を軽減 (水防法に基づく浸水想定区域(想定最大)内の要配慮者施設は約1500施設)
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・水害廃棄物155,000tの解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	○ ・下流部築堤区間では、1～8号床止工付近でアユの遡上調査を実施して、魚道構造の改築を進めている。また、潮止堰撤去や河床掘削を進めることで、汽水域が拡大し、干潟が再生することで多様な汽水性の生物(ゴカイやハゼ等)の生息環境の創出に努めている。 ・下流部掘込区間では、礫河原の再生を目指してスライドダウンによる河床掘削を実施している。 ・上流部では、河床掘削工事に併せて、オギ群集再生のため現地表土の再利用を行っている。また、二枚貝の移植を実施し、タナゴ類等の生息環境の再生に努めている。

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>尼崎市・西宮市・宝塚市・伊丹市の4市で構成する武庫川下流治水事業促進協議会から、武庫川の整備促進要望が上がっている。</p>
-------	---

参考：事業の変遷

昭和60年：昭和58年台風10号を契機に武庫川水系工事実施基本計画策定
 昭和62年：河川改修事業に着手
 平成21年3月：武庫川水系河川整備基本方針策定
 平成23年8月：武庫川水系河川整備計画策定
 平成24年：武庫川水系河川整備計画策定完了報告